チュニジア国立漁業センタープロジェクト

エバリュエーション 資　料

1980年11月

目　　次

Ⅰ　センター設置目的 …… 103

Ⅱ　再教育訓練の目標 …… 103

（表１）再教育訓練の各種別達成実績と R／D 終了時における達成見込み …… 104

（表２）再教育訓練修了者数／試験成績及び出席率 …… 107

Ⅲ　再教育訓練計画 …… 108

1.　参加対照者の職業，年令及び数 …… 108

2.　参加者の参加方法 …… 108

3.　期間と回数 …… 108

4.　単位時間当り収容人員 …… 108

5.　再教育訓練のレベル内容 …… 109

6.　カリキラム …… 109

7.　シラバス …… 110

8.　再教育訓練の方法 …… 110

9.　専門家によるカウンターパート教育 …… 110

10.　教育訓練の時間割 …… 111

（表３）再教育訓練参加者の職業，年令構成 …… 112

（表４）再教育訓練スケジュール（第一回，第二回，第三回） …… 113

（表５）再教育訓練カリキュラム …… 116

（表６）専門家の業務実績及び R／D 済了時の達成見込み …… 117

（表７）カウンターパート教育の実績 …… 120

（表８）トロール漁業操業実績 …… 124

（表９）まぐろ延縄漁業操業実績 …… 125

（表10）いか釣，曳縄及び曳釣漁業操業実績 …… 126

（日本政府の分担）

Ⅳ　専門家の派遣 …… 128

Ⅴ　日本人専門家の業務 …… 129

Ⅵ　カウンターパート日本研修 …… 130

Ⅶ　機材供与 …… 132

（表11）供与機材据付，使用計画及び実績 …… 132

（チュニジア政府の分担）

Ⅷ　チュニジア側スタッフの配員 …… 137

Ⅸ　訓練船の種類と使用状況（図2　サラクタ号一般配置図） …… 139

Ⅹ　施設，設備（図3　センター建物配置図） …… 140

Ⅺ　教　材　等 …… 140

Ⅻ　運 営 費 等 …… 140

（表12）予 算 状 況 …… 143

XIII　日本人専門家に対する便宜 …… 144

（表13）再教育訓練実績 …… 145

（表14）再教育訓練計画 …… 146

（表15）技術協力実績 …… 147

（表16）55年度技術協力計画 …… 148

	R/D における目標及び計画	現段階における目標計画	協定R/Dと現段階での目標及び計画の変更理由	協定終了時に於ける達成見込み	備　考
I〕センター設置目的	〔R/D〕チュニジア漁業の発展に貢献するため現役の水産教師等に対し漁具漁法の基礎理論，オッタートロール，旋網，まぐろ延縄及び沿岸の各漁業に関して理論，実技両面で再教育訓練を行う。 （R/D 第1条及び別添1）	及びその達成実績 左に同じ			
II〕再教育訓練の目標	水産学校教師等が元の学校へ復帰後同校の教育訓練のレベル向上に役立つ程度の漁業技術の理論と実技を習得させること。	左に同じ 〔実　績〕 （再教育訓練） 各業種の座学，陸上実習，乗船実習に関する達成実績と達成見込。 （次頁表　参照）			

表　再教育訓練の漁種別達成実績と R/D 終了時に於ける達成見込み

	トロール漁業	まぐろ延縄漁業	まき網漁業
A　達成実績			
(1) 座　学	各サイクルとも日本で作成し，現地に合わせて修正した教科書を参加者に配布。フィルム類を使用して予定した内容を順調に授業することができた。参加者の理解度もテスト結果で見られる通り満足出来るものであり，再教育終了後所属先に帰った参加者はここで学んだ内容をかなり活用していることが確認されているので，ほぼ満足出来る状態であると云える。	トロール漁業と同じ	左に同じ
(2) 陸上実習	各サイクル共訓練船サラクタ号で使用する実物網，6枚網，中層網を参加者の手で完成しその網を使って海上実習を行った。 再教育終了後所属校にて自分の手で6枚網を作成して訓練船で使用している者もいる。この点からもほぼ満足出来る状態と云える。	主体である漁具の作成については各サイクル共に予定通り実施し鮪延縄漁具の作成については理解させることが出来たが，漁労機械等についての操作は設備された延縄船がなくこれを取り入れる事が出来なかった。	小型まき網（ランバラ用網機材を使用）と模型網作成を実施）して予定通り終了しまき網製作は目的を達したが，漁労機械類については民間まき網船の上で具体的にその使用方法を説明するに止まり、取扱操作については協力が得られなかった。
(3) 海上実習	再教育第1～2回は予め実習期間を設定したのであるが第2回においては予定の1ヶ月間の内天候不順のため2日しか操業出来なかった。又更には専門家の語学能力，船上指導の不慣れ及び漁具が改良中のもので完全でなかった事，ネットレコーダーが充分に機能しなかった事，更に参加者の船酔いなどで	必要とする適格船の準備は各関係者の努力にも拘らずまだ整わず第1回学生は餌をつけないカラ縄で手揚げによる投揚縄訓練を実施したに過ぎず（使用鉢数5～7鉢）海上実習とはほど遠いものであった。第2，3回生についてはO．N．P所属トロール船を一部改造しウインチ揚による操業を実施したが(1	実習を行う旋網船（官，民共）の確保が出来ず，ランバラ船又は鮪旋網船に配乗実習させた状況であるが，何れも民間船のため十分な協力が得られず，各サイクル共1～2回の乗船見学で終り，海上実習としては真に形式的なものであった。従って第4回サイクルに於て仮に船の準備が出来たとしても実習は不完

	トロール漁業	まぐろ延縄漁業	まき網漁業
	満足のいく内容とは云えなかった。しかしながら第3回目からは実習期間を固定せず好天出漁，悪天時座学という方法に改善し漁具指導方法も改良したので最終回に於ては順調に消化出来ると見込んでいる。	回の操業縄数50鉢前後）エンジン等の故障多発し僅か3～7回の操業を経験させただけで，海上実習はまだ満足なことが出来ない状態であるが，一応の認識は得られたと判断する。	全なままと考えられる。 今後とも現状のままで推移すると海上実習の目標達成はかなり困難なものになると考える。
(4) 総　合	以上を総合すれば種々の限られた条件の中で座学実習共に大きな支障がなく無事行われた。海上実習がやや満足ではあるが総合的に参加者から好評を得ている事から見てもほぼ満足出来る成果であったと思われる。	座学，陸上実習はほぼ目標を達したと思われるが，その集約である海上実習が不十分であるので総じて延縄漁業の再教育訓練は不充分と考えられる。しかしながら第1回生の或者は小規模な延縄漁業を行ってメカジキの漁獲を行ったものがおり（モナステール）特筆に値する。	座学，陸上実習はほぼ満足のいくものと考えるが集約である海上実習については遠船の準備がなされない為，不満足な結果であるので総じて旋網漁業再教育訓練は一層の努力が必要と考える。
B 達成見込	座　学　a 陸上実習　a ト 総 合 a 海上実習　b	座　学　a 陸上実習　b ト 総 合 b 海上実習　b	座　学　a 陸上実習　b ト 総 合 c 海上実習　c

	漁　業　一　般	沿　岸　漁　業	
(1) 座　学	各サイクルとも日本で作成し現地に合わせて手直した教科書を参加者に配布し，フィルム類も併用して講義を行った。 但し本科目に対してはまとまった日程が与えられて居らずオリエンテーションに引続く数日（3～4日）の外に間隙的に他の科目の合間を利用して出来るだけ主要項目にしぼって，重要講義とならざるを得ない状況である。 カウンターパートも初めの2回は協力を得られたが現在は欠のままである。	現在までの所はまぐろ延縄，旋網漁業実習の隙間を補う為とチュニジア側の強い要望もあって夫々半日程度の曳縄，イカ釣，及び定置網等の講義を行い別添の通り海上実習も数回行って参加者の関心を集めた。	
(2) 実　習		曳縄，イカ釣，まぐろ曳縄等の各種海上実習が数回行われコース参加者の理解を得た。	
(3) 総　合	割当時間が少いので極力重点講義を行って成果が挙る様配慮している。 漁業の近代化促進策等については日本漁業の現状を説明して意識の高揚に努めている。	1980年11月漸く沿岸の主要漁具が当センターに到着して使用出来る様になったのでこの分野に於ける試験操業，現業者及び再教育訓練への導入についてはこれからである。	
達成見込	総　合　　b	総　合　　b	

再教育訓練参加修了者数，試験成績及び出席率

	第1回サイクル 1979-7-16 ～12-30	第2回サイクル 1980-1-7 ～6-27	第3回サイクル 1980-7-14 ～12-26	第4回サイクル1981-1～6
応募者数	11	10	13	
入所者数	11	10	13	
中退者数	1	1	3（中退）	
不合格者数	0	0		
修了者数	10	9		
◎試験成績				
座学の平均点				
まぐろ延縄漁業	64.0	98.0		
巻網漁業	81.8	91.4	88.5	
トロール漁業	74.4	57.0		
◎出席率				
陸上実習				
まぐろ延縄漁業	80 %	80 %	80 %	
巻網漁業	80 %	80 %	80 %	
トロール漁業	80 %	80 %		
海上実習				
まぐろ延縄漁業	—	80 %	100 %	
巻網漁業	—	—	100 %	
トロール漁業	70 %	95 %		

	R/Dにおける目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R/Dと現段階での目標及び計画の変更理由	協定終了時に於ける達成見込	備　　考
Ⅲ〕再教育訓練計画					
1）参加対象者の職業，年令及び数	◦水産高校卒業者で現在漁業技術課目の授業を担当している水産高校教師。　３０名 ◦同上のうち漁業技術以外の関連課目を担当している水産高校教師。　１０名 ◦本センターの職員に任命されている者又は近い将来任命される者。　１０名 計　５０名 以上の参加対象者の平均年令は２７～２８才である。	第１次の再教育訓練コースにおいて漁業訓練センター教員を参加対象として認め，以後のコースから水産局普及員を含めて広くチュニジア漁業教育訓練に貢献する者も参加対象者として認めた。	水産局の要望により合意する。		
2）参加の方法	対象者は殆んど現職の教師なので再教育訓練期間中は勤務先の教科スケジュールを変更してでも参加する。	左に同じ			
3）教育訓練期間と回数	下記スケジュールで６ケ月サイクルを５回行う。 1回目 1979年 4月初旬から同年9月下旬 2回目 1979年10月初旬から1980年3月下旬 3回目 1980年 4月初旬から同年9月下旬 4回目 1980年10月初旬から1981年3月下旬 5回目 1981年 4月初旬から同年9月下旬	1979年7月中旬から６ケ月サイクルを４回行う。 1回目 1979年7月16日から1979年12月28日まで 2回目 1980年1月 7日から1980年 6月27日まで 3回目 1980年7月14日から1980年12月26日まで 4回目 1981年1月 初旬から1981年 6月下旬まで			
4）単位期間別の収容人員数	１０名	１２名	再教育訓練コースの開始が1979年7月15日からになり本プロジェクト終了まで4サイクルしか実施出来なかったのでチュ側と協議		

	R/D における目標及び計画	現段階における目標，計画	協定 R/Dと現段階での目標及び計画の変更	協定終了時に於ける達成見込	備　考
			の結果1サイクル12名収容で行うことが合意された。		
5）レベルと内容	オッタートロール旋網並びにまぐろ延縄の漁業に関する漁具の設計取扱い，関連機器の操作保守の理論と実技を内容とするが，再教育訓練参加者が水産学校の漁業技術担当の教師ばかりでないことを考慮して，漁労技術以外の課目を担当している教師にも理解出来るよう巾を持たせたものとする。				
6）カリキラム	次の観点から作成実行する。 ①実践的な教育訓練の実施 再教育参加者が母校へ復帰後生徒に対して漁業技術を教えることが出来る様現場に活用出来る実技と理論を組み合わせた教育訓練の実施を指向する。	左に同じ			
	②漁業種目の限定 多種多様な漁業種目について教育訓練を行うのではなくチュニジア国に適する，又効果の挙げ得る漁業種目を限定して行う。（一応当初に於ては旋網漁業，トロール漁業及びまぐろ延縄漁業とする）	いか釣，曳縄，定置，刺網等の沿岸漁業を導入した。	適船がない為旋網，まぐろ延縄両漁業の海上実習が出来ないためと再教育訓練参加者の要望による。		
	③漁業種目別の教育訓練 単位期間：前記三種目を併行的に教育訓練する方法をとらず一漁業種目別にまとめて教育訓練を行う。このことにより漁業種目別の特徴をよく理解し知識と技術をより鮮明	左に同じ			

	R/Dにおける目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R/Dと現段階での目標及び計画の変更理由	協定終了時に於ける達成見込	備考
	に体得させることを意図する。				
7）シラバス	本教育訓練のシラバス作成については旋網漁業，トロール漁業，及びまぐろ延縄漁業についてそれらを構成するあらゆる要素，すなわち漁船，漁労機械，漁労計器，漁具構造，網成りと操法，漁法，漁場，魚族の生態，保蔵加工，経営などを有機的に組み合わせた漁業論として講義すること。又これらの中で実際に体験させることが必要な事項については，陸上での実習を課し且つ海上で訓練船によって実際に漁労（技術）操業を行い，これらの総合的な知識，体験を得させることを念頭におく。	左に同じ			
8）再教育訓練の方法	専門家によるカウンターパートの教育を基幹としてカウンターパートが参加者を教育訓練する。 即ち各カウンターパートがあらかじめ日本人専門家の指導を受けたのと担当専門家の責任のもとに再教育訓練に直接当ることとする。その際，担当専門家は同席する。	左に同じ			
9）専門家によるカウンターパート教育	各漁業技術の理論と実技に関し予め担当専門家が英語で個別指導を行う。	個別指導を仏語で行うことになった。	R/Dの締結時の合意に反しチュニジア側が英語力のあるカウンターパートを揃えることが出来なかった為カウンターパート教育に仏語通訳が必要となり水産局		

	R/D における目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R/Dと現段階での目標及び計画の変更理由	協定終了時に於ける達成見込	備　　考
			と協議の結果チュ側の強いにより実現となった。	要請	
10）教育訓練の時間割	A）講義陸上実習 午前　始業　0900　講　義 　　終業　1200 午后　始業　1500　漁具作業 　　終業　1700 尚夏時間（6月1日～9月15日）は午前の始業0800終業1300で午后は休み。 B）海上実習 トロール漁業，まぐろ延縄漁業。 トロールは5日航海。 旋網漁業は日帰り操業を行う。		参加者の能力に合わせて当初は2日航海から始めて順次航海日数を5日まで増やした。		

表3　再教育訓練参加者の職業構成

	第一サイクル	第二サイクル	第三サイクル	合　計
水産高校漁具漁法	2	1		3
船長			2	2
漁業訓練センター（C. F. P. P）（漁労）	9	2	2	13
水産局普及員		2	2	4
水産局養殖			1	1
〃　漁民指導			2	2
〃　給船管理		1		1
〃　漁船登録		2		2
〃　事務一般			1	1
職業訓練所		1		1
計	11	9	10	30

再教育訓練参加者の年令構成

職業／年令	第一サイクル	第二サイクル	第三サイクル	合　計
22	1			1
23	1	1	2	4
24	2			2
25				
26		1	1	2
27				
28		1		1
29		1	2	3
30	3		4	7
31	1			1
32	2			2
33	1	2		3
34		1		1
35		1	1	2
36		1		1
計	11	9	10	30

表4　第一回再教育訓練コーススケジュール表（1979. 7. 16～1979. 12. 28）

7月		8月		9月		10月		11月		12月	
1 日		1 水	オッターボードとワープ	1 土	夏期休暇	1 月	延縄漁具の構成	1 木	旋網漁具材料	1 土	
2 月		2 木	〃	2 日	〃	2 火	〃	2 金	〃	2 日	
3 火		3 金	まとめ	3 月	トロール乗船実習第1次	3 水	〃	3 土	まとめ	3 月	旋網漁法
4 水		4 土		4 火	〃	4 木	〃	4 日	秋期休暇	4 火	海中の網成り
5 木		5 日		5 水	〃	5 金	まとめ	5 月	〃	5 水	〃
6 金		6 月	トロール漁業機械	6 木	〃	6 土		6 火	〃	6 木	漁獲物処理
7 土		7 火	トロール漁業機械	7 金	〃	7 日		7 水	〃	7 金	まとめ
8 日		8 水	魚群発見法	8 土		8 月	漁場環境条件	8 木	〃	8 土	
9 月		9 木	〃	9 日		9 火	〃	9 金	〃	9 日	
10 火		10 金	まとめ	10 月	トロール乗船実習第2次	10 水	〃	10 土	〃	10 月	旋網乗船実習第1次
11 水		11 土		11 火	〃	11 木	まぐろ延縄漁法	11 日		11 火	〃
12 木		12 日		12 水	〃	12 金	まとめ	12 月	旋網漁場環境条件	12 水	〃
13 金		13 月	トロール漁法	13 木	〃	13 土		13 火	〃	13 木	〃
14 土		14 火	〃	14 金	〃	14 日		14 水	〃	14 金	〃
15 日		15 水	〃	15 土		15 月	まぐろ延縄漁法	15 木	〃	15 土	
16 月	オリエンテーション	16 木	漁獲物処理	16 日		16 火	〃	16 金	まとめ	16 日	
17 火		17 金		17 月	トロール乗船実習第3次	17 水	〃	17 土		17 月	旋網乗船実習第2次
18 水	漁業一般	18 土	夏期休暇	18 火		18 木	延縄漁業機器	18 日		18 火	〃
19 木	〃	19 日	〃	19 水		19 金	〃	19 月	旋網漁船	19 水	〃
20 金	〃	20 月	〃	20 木		20 土		20 火	〃	20 木	〃
21 土		21 火	〃	21 金		21 日		21 水	〃	21 金	〃
22 日		22 水	〃	22 土		22 月	延縄漁業機器	22 木	〃	22 土	
23 月	トロール漁業概論	23 木	〃	23 日		23 火	海中での縄成り	23 金	まとめ	23 日	
24 火	トロール力学	24 金	〃	24 月	まとめ（復習）	24 水	〃	24 土		24 月	旋網乗船実習第3次
25 水	〃	25 土	〃	25 火	テスト	25 木	〃	25 日		25 火	〃
26 木	〃	26 日	〃	26 水	まぐろ延縄概論	26 金	まとめ	26 月	旋網漁業機械	26 水	まとめ
27 金	まとめ（復習）	27 月	〃	27 木	延縄漁具材料	27 土		27 火	〃	27 木	テスト
28 土		28 火	〃	28 金	〃	28 日		28 水	〃	28 金	開講式
29 日		29 水	〃	29 土		29 月	旋網漁業概論	29 木	旋網漁法	29 土	
30 月		30 木	〃	30 日		30 火	旋網の構成	30 金	まとめ	30 日	
31 火		31 金	〃			31 水	〃			31 月	

第二回再教育訓練コーススケジュール表（1980. 1. 7～1980. 6. 27）

1月		2月		3月		4月		5月		6月	
1 火		1 金	漁　法	1 土		1 火	漁業一般(トロール経営)	1 木	トロール乗船実習	1 日	
2 水		2 土		2 日		2 水	〃	2 金	復　習	2 月	延縄乗船実習第3次
3 木		3 日		3 月	トロール漁業概論	3 木	〃	3 土		3 火	〃
4 金		4 月	漁　法	4 火	トロールの力学	4 金	〃	4 日		4 水	〃
5 土		5 火	網成り	5 水	〃	5 土		5 月	まぐろ延縄漁業概論	5 木	〃
6 日		6 水	〃	6 木	〃	6 日		6 火	漁　法	6 金	〃
7 月	第2回再教育訓練準備	7 木	漁獲物処理	7 金	漁具の構成と材料	7 月	春期休暇	7 水	〃	7 土	
8 火	オリエンテーション	8 金	テ　ス	8 土		8 火		8 木	漁具構成と材料	8 日	
9 水	漁業一般	9 土		9 日		9 水		9 金	〃	9 月	延縄乗船実習第4次
10 木	〃	10 日		10 月		10 木		10 土	〃	10 火	〃
11 金	〃	11 月	旋網乗船実習第1次	11 火		11 金		11 日		11 水	〃
12 土		12 火	〃	12 水		12 土		12 月	漁具構成と材料	12 木	〃
13 日		13 水	〃	13 木		13 日		13 火	海中での縄成り	13 金	〃
14 月	旋網漁業概論	14 木	〃	14 金	オッターボードとワープ	14 月	トロール乗船実習第1次	14 水	〃	14 土	
15 火	漁業環境条件	15 金	〃	15 土		15 火	〃	15 木	〃	15 日	
16 水	〃	16 土		16 日		16 水	〃	16 金	場環境条件	16 月	延縄乗船実習第5次
17 木	漁具構成と材料	17 日		17 月	トロール漁業機械	17 木	〃	17 土		17 火	〃
18 金		18 月	旋網乗船実習第2次	18 火	〃	18 金	〃	18 日		18 水	〃
19 土		19 火	〃	19 水	魚群探索法	19 土		19 月	延縄乗船実習第1次	19 木	〃
20 日		20 水	〃	20 木	〃	20 日		20 火	〃	20 金	〃
21 月	旋網漁船	21 木	〃	21 金	航海計器	21 月	トロール乗船実習第2次	21 水	〃	21 土	
22 火		22 金	〃	22 土		22 火	〃	22 木	〃	22 日	まぐろ延
23 水	漁業機械	23 土		23 日		23 水	〃	23 金	〃	23 月	まぐろ延縄漁船機器
24 木	〃	24 日		24 月	トロール漁船	24 木	〃	24 土		24 火	漁獲物処理
25 金	漁業計器	25 月	旋網乗船実習第3次	25 火	漁　法	25 金	〃	25 日		25 水	テ　ス　ト
26 土		26 火		26 水	〃	26 土		26 月	延縄実習第2次	26 木	復　習
27 日		27 水		27 木	漁獲物処理	27 日		27 火	〃	27 金	
28 月	漁業計器	28 木		28 金	テ　ス　ト	28 月	トロール乗船実習第3次	28 水	〃	28 土	閉　講　式
29 火	〃	29 金	復　習	29 土		29 火	〃	29 木	〃	29 日	
30 水	漁　法			30 日		30 水	〃	30 金	〃	30 月	
31 木				31 月	漁業一般(トロール経営)			31 土		1	

第三回再教育訓練コーススケジュール表（1980. 7. 15～1980. 12. 26）

7月		8月		9月		10月		11月		12月	
1 火		1 金	前日に続き延縄実習	1 月	延縄漁業概論	1 水	旋網漁法	1 土		1 月	トロール漁法
2 水		2 土	(Aグループ)	2 火	〃	2 木	〃	2 日		2 火	〃
3 木		3 日		3 水	〃	3 金	〃	3 月	秋期休暇	3 水	〃
4 金		4 月	夏期休暇	4 木	漁具の構成と材料	4 土		4 火	〃	4 木	漁獲物処理
5 土		5 火	〃	5 金	まぐろ延縄漁法	5 日		5 水	〃	5 金	テスト
6 日		6 水	〃	6 土		6 月	海中での網成り	6 木	〃	6 土	
7 月		7 木	〃	7 日		7 火	〃	7 金	〃	7 日	
8 火		8 金	〃	8 月	海中での網成り	8 水	漁獲物処理	8 土		8 月	トロール乗船実習第1次
9 水		9 土	〃	9 火	延縄漁船機器	9 木	〃	9 日		9 火	〃
10 木		10 日	〃	10 水	漁獲物処理	10 金	テスト	10 月	トロール漁業概論	10 水	〃
11 金		11 月	〃	11 木	まとめ	11 土		11 火	〃	11 木	〃
12 土		12 火	〃	12 金	テスト	12 日		12 水	〃	12 金	〃
13 日		13 水	〃	13 土		13 月	旋網漁業乗船実習	13 木	〃	13 土	
14 月	再教育準備	14 木	〃	14 日		14 火	〃	14 金	〃	14 日	
15 火	オリエンテーション	15 金	〃	15 月	旋網漁業概論	15 水	〃	15 土		15 月	トロール乗船実習第2次
16 水	漁業一般	16 土	〃	16 火	漁場の環境条件	16 木	旋網乗船実習	16 日		16 火	〃
17 木	〃	17 日	延縄漁業乗船実習第1次	17 水	〃	17 金	〃	17 月	トロール漁具の構成と材料	17 水	〃
18 金	〃	18 月	(Bグループ) 〃	18 木	漁具の構成と材料	18 土		18 火	〃	18 木	〃
19 土		19 火	〃	19 金	〃	19 日		19 水	〃	19 金	〃
20 日		20 水	〃	20 土		20 月	旋網乗船実習	20 木	オッターボードと手網	20 土	
21 月	延縄漁業乗船実習第1次	21 木	〃	21 日		21 火	〃	21 金	〃	21 日	
22 火	〃 Aグループ	22 金	〃	22 月	旋網漁船	22 水	〃	22 土		22 月	同上第3次
23 水	〃	23 土		23 火		23 木	〃	23 日		23 火	
24 木	〃	24 日	延縄漁業乗船実習第2次	24 水	旋網漁業機械	24 金	〃	24 月	トロール漁業機器	24 水	
25 金		25 月	(Bグループ) 〃	25 木	旋網漁業計器	25 土		25 火		25 木	まとめ
26 土		26 火	〃	26 金	〃	26 日		26 水	魚群探知器	26 金	閉講式
27 日		27 水	〃	27 土		27 月	旋網乗船実習	27 木		27 土	
28 月	延縄漁業乗船実習第2次	28 木	〃	28 日		28 火	〃	28 金	トロール漁法と計器	28 日	
29 火	〃 Aグループ	29 金	〃	29 月	旋網漁業計器	29 水	〃	29 土		29 月	
30 水	〃	30 土		30 火	旋網漁法	30 木	〃	30 日		30 火	
31 木	〃	31 日				31 金	まとめ				

表5　第二回再教育訓練カリキュラム（6ケ月 1980. 1. 8～1980. 6. 27）

	講義科目別日数	業種別講義実習別日数	業種別日数
1　オリエンテーション			1
2　漁業全般			8
3　旋網漁業			34
1）講義		17	
(1)　旋網漁業概要	1		
(2)　漁場と環境条件	2		
(3)　漁具の構成と材料	1		
(4)　漁船	2		
(5)　漁業機械と計器類	5		
(6)　漁法網成り	5		
(7)　漁獲物処理	1		
2）陸上実習（漁具作製，機器操作，講義日の午后に行う）			
3）海上実習　5日×3回		15	
4）復習試験		2	
4　トロール漁業			36
1）講義		19	
(1)　トロール漁業概要	1		
(2)　トロール力学	3		
(3)　漁具構成と材料	5		
(4)　漁船	1		
(5)　漁業機械	3		
(6)　漁場環境条件	2		
(7)　魚探法	1		
(8)　漁法	2		
(9)　漁獲物処理	1		
2）陸上実習（漁具作成，機器操作，講義日の午后に行う）			
3）海上実習　5日×3回		15	
4）復習と試験		2	
5.　まぐろ延縄漁業			39
1）講義		12	
(1)　まぐろ延縄漁業概要	1		
(2)　漁法網成り	5		
(3)　漁具構成と材料	3		
(4)　漁場環境条件	1		
(5)　漁船漁業機械	1		
(6)　漁獲物処理	1		
2）陸上実習			
3）海上実習		25	
4）復習と試験		2	
6.　閉講式			1
総計			119

表6　日本人専門家の業務実績及び R/D 満了時の達成見込み

		教育訓練計画の作成	レクチャーノートの作成	漁具機器の操作保守	カウンターパートの指導能力
トロール漁業	実績	50%	70%	50%	60%
	見込	80%	80%	70%	75%
	問題点	専門のカウンターパートの任命配属が遅れた為に専門家の努力にも拘らずすべての分野に於て不十分な状態である。更に語学能力（仏語）がやゝ不足の為細部に亘る指導がまだ行届かず能力の開発が遅れている。			
旋網漁業	実績	30%	50%	10%	0
	見込	70%	75%	40%	40%
	問題点	本業種に於ては1980年9月までカウンターパートは兼任であった為，多忙の為に教育並びにカウンターパートの事務遂行が殆んど行えなかったので白紙の状態に近い，従って延縄カウンターパートが旋網を兼任した。評価はまぐろ延縄と同じ。			
まぐろ延縄漁業	実績	60%	60%	30%	40%
	見込	80%	80%	40%	50%
	問題点	専任カウンターパートの配属が遅れた為にすべての分野に於て専門家の指導が徹底出来ない。更に語学（仏語）能力の不足によりカウンターパートに対する細部に亘る指導が十分でない。又船の選定が大巾お遅れ漁労機器等の操作保守の指導が出来ていない。			
沿岸漁業	実績	30%	30%	20%	
	見込	50%	50%	30%	
	問題点	専任のカウンターパートがまだ配属されておらず更には各専門家は個有の業務に夫々多忙で手が廻らずすべて大巾に遅れている。実技を行ったのは曳縄，イカ釣，刺網だけで他の機材の到着入手は1980年11月までかかった。			
漁業一般	実績	60%	60%		
	見込	80%	80%		
	問題点	専任のカウンターパートがまだ配属されず当初はアリー氏が兼任で主として座学を行ったのであるが，本人は日本研修で能力が向上したので良く業務の上では役に立った。しかし，この人は1980年9月にモナスティールに転勤となり代りの人は1981年に配属が予定されている。			

（備考）
巻網専任のカウンターパートは，1980年10月1日付で配属になったが，教育期間が短かく目下特訓中。

共通問題点	(a) 専任のカウンターパートの配属が遅れたのとまだ配属されていない部門もある為に全ての分野に於て教育指導が十分進んでいない。 (b) 業種によっては適船がなくて海上訓練がまだ出来ないものもあり，漁具機器の中で到着が遅れて実技面の指導が十分(トロールを除く)でないものもある。 (c) 専門家の仏語能力がまだ未熟であるので細部に亘る指導に於て現地側との意志の疎通がまだ不足している。
備考	沿岸漁業については漁具機材の到着の遅れにより曳縄，イカ釣，刺網漁業以外はまだ行われていない。

教科書及びレクチャーノートの作成進捗状況

		計画頁数	進捗状況%	作成完成時期	備考
漁業一般	教科書	194	100 %	1979－12	印刷完了し使用中
	レクチャーノート		70 〃		
トロール漁業	教科書	355	100 %	1979－12	印刷完了し使用中
	レクチャーノート	47	70 〃	1981－ 6	
旋網漁業	教科書	103	100 %	1979－12	印刷完了し使用中
	レクチャーノート	70	40 〃	1981－ 6	
まぐろ延縄漁業	教科書	118	100 %	1979－12	印刷完了し使用中
	レクチャーノート	60	60 〃	1981－ 6	
いか釣漁業	教科書				
	レクチャーノート	13	30	1980－ 5	

〔日本人専門家の業務実績及び達成見込み〕評価基準

本プロジェクトの再教育訓練，現業者の改善指導に必要な技術知識をカウンターパートがどの程度取得したかをその推捗状況により%で示したものである。下記に示す各項目が80%に達していれば技術協力が概ね成功裡に実施されたものと判断されて良く，残りの%に関してはカウンターパート自身による今後の経験の積み重ねにより達成されるものと考えて良い。

以下に各項目の評価基準を示す。

1) カリキラム・シラバスの作成

(a) カウンターパートが独自で作成し得る程度の技術知識を習得した。又は習得し得ると判断される場合を100%とする。

(b) カウンターパートが専門家の指導のもとに独自で充分に作成しうると判断される場合をその程度に応じ80%以上とする。

(c) カウンターパートが専門家の密接な指導がなければ充分なものを作成し得ないと判断される場合を50%以下とする。

(d) カウンターパートが作成の経験が全くなく，白紙の状態である場合を0%とする。

2) レクチャーノートの作成

(a) 殆ぼ完全に準備作成されている（される）場合を100%とする。

(b) 協力終了時に再検討する必要があり且つ再検討後ほぼ満足のいくものになり得る場合を80%以上とする。

(c) 準備段階であったり或は半分程度しか作成されていない場合を50%以下とする。

(d) 1)に同じ。

3) 機材の操作及び保守

(a) カウンターパートが漁具機器及び工具類につき通常の教育訓練に必要とされる操作，一般におこる簡単な故障の修理及び整備が独自でなし得る程度の技術及び知識を習得した（しうる）と判断される場合を80%以上とする。

(b) カウンターパートが上記(a)に云う作業において専門家の密接な指導及び監督が必要とされる場合を50%とする。

(c) 1)の(d)に同じ。

（注）本項における100%は通常あり得ない。

4) カウンターパートの指導能力

(a) カウンターパートが指導員として必要とされるであろう知識，技術を充分に習得し訓練の事前準備を独自で実施し得ると共に，再教育訓練参加者に対する指導能力及び指導方法が充分であると判断される場合を80%以上とする。

(b) カウンターパートが上記(a)に云う諸事項を専門家の密接な指導なしに行い得る場合を50%とする。

(c) 1)の(d)に同じ。　（注）本項における100%は通常あり得ない。

表7　カウンターパート教育の実績

トロール漁業部門	餌延縄漁業部門	旋網漁業部門	備考
1〕氏名　Mr. Gueblaoui Abdelaziz グブラウィー 教育期間1979年4月～1981年6月 ・カリキュラム，シラバスの作成 達成度　：　b （理由）1979年4月～1979年10月 講義実習のカウンターパート 1979年現在－実習のみのカウンターパート 上記の如く1979年10月以降センターに常駐せず講義に関係していない。サラクタ号の乗組員兼任である為この様になった。 R／D終了時も同じ。 ・講義ノートの作 達成度　：　b （理由）①と同じで1979年10月以降座学に関係していないから。 R／D終了時も同じ状態。 ・漁具機器の取扱い保守 達成度　：　b （理由）問題は何もないがまだ充分でない。指導を続けるのみである。 ・指導能力 達成度　：　c （理由）前記①②③の何れも達成度bで人を指導出来るまで行っていない。	1〕氏名　Mr. Ben Farhat Ayoub アユブ 教育期間1979年2月～1981年6月 ・カリキラム，シラバスの作成 達成度　：　c （理由）サラクタ号乗組員兼務の為時間的に制約されることと経歴が船上実習が主体であった為苦手意識が強く物を教えたり計画することに抵抗があって仲々うまく行かない。 現在は実習に主体性を持たせて座学の方は専任のカウンターパートを養成している。 ・講義ノートの作製 達成度　：　c （理由）①と同じで1979年10月以降座学に関係していないからR／D終了時も同じ状態。 ・漁具機器の取扱い保守 達成度　：　b （理由）比較的理解は早いが保守関係についてはまだ不足の点が多い。 ・指導能力 達成度　：　c （理由）年令は若い（23才）ということもあるが特に計画性，責任感の不足の点が目立つ。	1〕氏名　Mr. Karker Ali アリー　カルケル 教育期間1979年 アリー氏はこのプロジェクトの発足当初，マザィア中等水産学校長の立場に於て旋網漁業と漁業一般のカウンターパートを兼務する形で任命されたのであるが実際には中学校関係の業務が多く多忙の為カウンターパート教育に必要な時間が全然とれぬ現実があり中途半端な状態で終っている。従って再教育に対しても彼本来の業務のため出席出来ない事が多く止むなく延縄のBen Slama氏を起用して第1回サイクルの半ばから彼に旋網カウンターパートも兼任させ急ぎ教育することにして解決策とした。従って旋網各項目についてアリー氏を評価する段階に到っていないが非常に頭の切れる優秀な人物であるので彼の能力からすれば優秀なカウンターパートになり得たことと思う。 更にアリー氏は1980年9月にはモナステール水産学校に転勤が発令されてこのプロジェクトから離れることになったことを附記する。 延縄漁業に於けるアユブ氏旋網漁業に於けるアリー氏については問題が多く実際上困ったのでベンスラマ氏を急遽，旋網カウンターパートとしても起用することに決め1979年10月より教育を始めた。	

トロール漁業部門	鮪延縄漁業部門	旋網漁業部門	
（対策）一層力を入れて指導を続けることとし陸上座学にも再度参加させる予定。 R/D終了時の達成見込度 今後の努力によって(b)になり得る。 ◦総　合 達成度　：　甘くみて　b 辛くて　c （理由）前述の通り R/D終了時の達成見込度　：　b 2〕氏名　Mr. Gzara Rachid （グザラ　ラシッド） 1979年10月～現在 ◦カリキュラム，シラバスの作成 達成度　：　b （専門家の用意したものはある） （理由）専門家が用意したものをこなす事は専門家の助けをかりて出来るが独自には無理である。 R/D終了時の達成見込度　：a （本人の勉強の熱意が旺盛であり専任でもあるので） ◦講義ノートの作成 達成度　：　b（aに近い） （理由）一応完成したものを作っているが中味が充分頭に入っていない　自分のものになっていない。　R/D終了時の達成見込度　：　a	（対策）一層注意して教育を続けることしかないが本人の自覚に待つ所も多い。 R/D終了時(b)になれるか疑問。 ◦総　合 達成度　：　甘く見て　b 相当の努力を要す （理由）前述の通り。 R/D終了時の達成見込度　：　b 2〕氏名　Ben Slama （ベン　スラマ） 期間　1979年10月～1981年6月 ◦カリキュラム，シラバスの作成 達成度　：　b （理由）着任が1979年10月，第2回目の再教育期間中に集中的に教育し現在も引続き教育中。チュニス大学卒にて優秀，理解度，責任感共に良好である。 R/D終了時の達成見込度　：　a （勉強熱心である） ◦講義ノートの作成 達成度　：　a （理由）テーマを与えてやれば100と迄は行かないまでもその能力と努力により程度満足出来るものを作成している。 R/D終了時の達成見込度　：　a	尚1980年10月には旋網漁業の専任カウンターパートとしてチュニス大学卒業生が1名新任される予定と知らされている。 2〕氏名　Ben Slama （ベン　スラマ） 期間　1979年10月～現在まで。 上記事情により旋網カウンターパートに起用されたのであるがたまたま旋網漁業の方は実習船の確保が未だ出来ておらず，殆んど座学と陸上実習が主体で進められた状態でベンスラマ氏は大きく役立っている。 評価に就いては各項目共鮪延縄漁業の評価と同様と見做して良い。 以上によってカウンターパートの評価について見れば専任がいなかったことと更には新任が1980年9月にずれ込んだことから，下記の様に判定せざるを得ない。 カリキュラム／シラバス達成度　：　b 講義ノートの作成　：　b 漁具機器の取扱い　：　c 指導能力　：　c 総　合　：　c	

トロール漁業部門	鮪延縄漁業部門	旋網漁業部門	備考
◦漁具・機器の取扱い保守 達成度 ： c （理由）当初より座学専門のカウターパートと位置づけられた為と学歴課程に於いて海上経験が殆んどない為実技の方は初心者である。陸上実習は専門家について行い，海上は時たま専門家と同乗した程度。 （対策）今後此の方面を意識的に強化して指導する。 R／D終了時の達成見込度 ： b ◦指導能力 達成度 ： b （理由）チュニス大学卒であり地方のチーフも経験しているので指導力はあるが基礎となる知識技術が充分身についていないので弱い。 R／D終了時の達成見込度 ： b （時間が不足でaまでは無理） ◦総 合 達成度 ： b （理由）前述の通りR／D終了時までの指導にては経験時間不足でaには達し得ないと推定される。 以上2人のカウンターパートを総合してR／D終了時を見込むと次の様に評価される。 カリキュラム，シラバス達成度 ： a 講義ノートの作成 ： a	◦漁機器の取扱い保守 達成度 ： b （理由）まだ正式の鮪延縄船がないという事から漁労機械関係の取扱いについては教育が出来ない現状であるが，その他についての取扱い保守から見て将来責任をもってやっていけると考える。又自身良く努力して勉強している。 又漁船運搬上のマネージングも良く勉強している。 R／D終了時の達成見込度 ： b （時間が足りない） ◦指導能力 達成度 ： a （理由）年令25才の若さにも拘らず沈着 熱心にカウンターパートとしての職責を良く果し日本人にも良く溶け込んでいる。将来的には伸びるものと思われる。 R／D終了時の達成見込度 ： a ◦総 合 達成度 ： b （理由）現実にまともな鮪船が運航していないことよりして肝心の教育をやることが出来ずはがゆい感じである。更には時間的にも来年6月までにどれだけの準備がととのうか問題である。 以上2人のカウンターパートを総合してR／D終了時を見込むと次の様に評価される。 カリキュラム，シラバス達成度 ： a		

トロール漁業部門	鮪延縄漁業部門	旋網漁業部門	備考
漁具・機器の取扱い　：　b 指導能力　：　b 総合　：　a～b 漁業一般部門 1〕氏名　アリーカルケル アリ氏に就いては旋網部門に於て詳しく述べられている通り中学校長職のまま2課目兼任の形となったが，実状は多忙のために直接の教育に対する協力度は小さいままで終った。 ◦教育期間 （自1979年2月1日～至同年4月15日） ◦教育内容 仏語テキストにより一通りの講義を実施した。テキストの内容が平易であるので理解度は大きかった。 日本研修により近代漁業の実際に直接触れたことは大きな収穫であった。 ◦達成度　総合　：　a 大変優秀な人物で本プロジェクトの為に積極的な協力活動が続行され貢献度は大きい。 （注）残念なことに本人は1980年9月にモナステール水産学校に転勤となって当面此の配置は0となる。	講義ノートの作成　：　a 漁具・機器の取扱い　：　b 指導能力　：　b 総合　：　b 沿岸漁業部門 1〕グサラ　ラシッド 兼任としてイカ釣の講義を担当 2〕ベン　スラマ 同様兼任としてイカ釣海上実習と曳縄（曳釣）の海上実習を担当させて若干の漁獲（イカ，まぐろ）を得ている。 上記の如く専任のカウンターパートがまだ配置されて居らず他の部門の者を兼任で間に合わせたが今後は専任者の着任が予定されているし機材関係も1980年9月には一通り揃って来るので計画的な事業が進められると思われる。 ◦達成度　：　c		

（表８）　トロール漁業操業実績

年　月　日	記　　事	操業海域	曳網回数	年　月　日	記　　事	操業海域	曳網回数
1979年 4月1日	サクラタ号整備終了しマディアに回収			1980年			
4/17～19	マディヤ基地・試験操	マディヤ沖	1 回	2/27～2/29		クリヤット沖	4 回
5/ 9～ 5/24	漁具調整操業	マディヤ沖	10	3/ 3～3/ 4		〃	7
5/ 9～ 6/30	地元漁民のランバラ操業に協力して魚探機による漁場調査を行う。			3/11～3/27		マディア沖	18
7/ 9～ 9/20	ソコメナドックにて定期修理入渠整備第１回再教育海上実習（開発を兼ねる）ランプドウサ及びケルケナ沖の深海（300 m）を目指してやったが 200 m位で終った。	ランプドウサ及ケルケナ沖	6	4/ 1～4/ 2	第２回再教育の海上実習期間として４月５日より４月３１日までを設定したが悪天候が多かった為4/17, 4/24の２日間しか稼働しなかった。	〃	8
		ハマメット沖	4	4/17		マディヤ沖	3
		スアックス沖	5	4/24		ケリビア沖	2
11/22		マディヤ沖	1	5/ 5～5/12		クリヤット沖	14
11/28～/29		ハマメット沖	9	5/13		ハマメット沖	4
12/10～12/28		ランプドウサ沖	3	5/16,5/22,5/23		マディヤ沖	5
		ジェルバ沖	3	6/ 5～7/10	この期間まぐろ操業に協力体制をとり合間を利用してチュニジア北部海域（ガウット島周辺，エスケルキスバンク及びオラリアバンク）の調査を行った。		
		ハマメット沖	6				
		クリヤット島沖（レポート３）	6				
1980年1/21～1/24		サラクタ沖	1	6/9		タバンカ沖	1
		マディヤ沖	3	7/6		チュニス湾沖	2
		クリヤット島沖	6	7/7		オテリアバンク	2
2/13～2/14		クリヤット島沖	6				合計140

（表9）　まぐろ延縄漁業操業実績

年月日	記事（水温）	操業海域	漁獲
1980年 6月4日	出漁準備		
5日	MAHDIA出向（第2回再教育学生Aグループ乗船）		
6日	BIZERTE入港		
7日	〃　出港（漁場向け）		
8日	No 1　操業　（19℃）	37°−40′N 08°−39′E	0
9日	No 2　〃　（19.1℃）	37−29′N 09−05.5′E	3
10日	No 3　〃　（20℃）	37−10′N 08−42′E	1
6/11〜14	BIZERTE入港船冷凍機修理，Aグループ下船		
6/15日	BIZERTE出港（Bグループ乗船）		
16日	No 4　操業　（20℃）	37−44′N 08°−51′E	鮪1 鮫1
17日	No 5　〃　（20.5℃）	37°−34.5′ 08−42.3′E	0
	同日主機故障のためBigerte入港（Bグループ下船）修理の為7月7日までかかる。		
7月 5日	Bigerte出港，Aグループ乗船		
7月 6日	No 6　操業　（21℃）	37−30′N 10−50′E	鮪1，鮫1
7日	No 7　〃　（21℃）	37−30′N 10−45′E	鮫 6 カジキ1
8日	No 8　〃　（21.5℃）		サメ3
7月 9日	Lagoullette入港（Aグループ下船）		
	7月20日まで主機関修理に従事		
7月20日	MAHDIA回航		
7月21日	MAHDIA出港（Bグループ乗船）		
22日	No 9　操業　（21.8℃）	36−13′N 11−57′E	0
23日	MAHDIA入港同日出港		鮪 1 カツオ1
24日	No 10　操業　（22.0℃）	35−48′N 11−52′E	
7月24日	MAHDIA入港（Bグループ下船）		
〜27日	冷凍機ウインチ他修理		

年月日	記事（水温）	操業海域	漁獲
7月28日	MAHDIA入港（Aグループ乗船）		
29日	No 11　操業　（23.0℃）	35°−40′N 11−45′E	
30日	No 12　〃　（23.0℃）	35−47′N 12−14.5′E	0
31日	No 13　〃　（24℃）	35−49′N 11−35′E	0
	同日MAHDIA入港（Aグループ下船）		0
8月 1日	KELIBIAに回航		
3日	KELIBIA出港（Bグループ乗船）		
4日	No 14　操業	37−39′N 11−12′E	0
5日	No 15　〃	38−05′N 11−25.6′E	鮫 2
6日	No 16　〃	38−05′N 11−35′E	0
7日	KELIBIA入港（Bグループ下船）		
8月8日 8月14日	VACANCE		
8月15日 〜8月20日	SOUSSEに回航の上舵修理の後MAHDIAに回航		
8月21日	MAHDIA出港（Aグループ乗船）		
22日	No 17　操業　（24.0℃）	37−39.5′N 10°−15.2′E	0
23日	舵故障のためBIZERTE入港		

操業結果

運航期間	6月7日 8月23日	78日
操業日数		17日
稼働率		

学生乗船実習回数

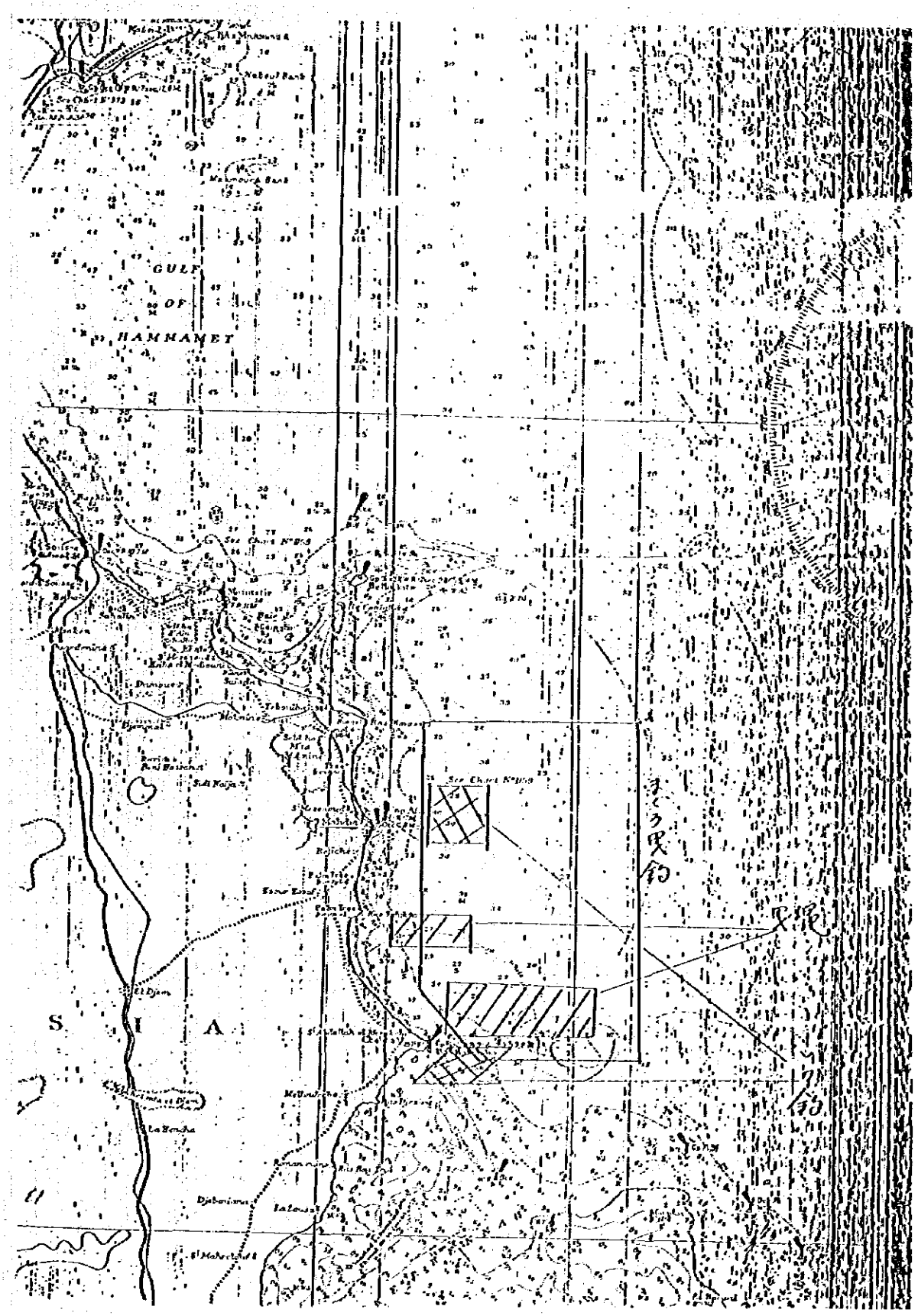
	Aグループ	Bグループ
第2回学生	3回	2回
第3回学生	7回	5回

1グループ学生数　4〜5名

（表10） いか釣，曳釣及び曳釣漁業操業実績

いか釣漁業（訓練船エルメディ号使用）				
年月日	時間	操業海域	漁獲	記事
1979年		マディア沖		
11月13日	1600～2200	〃	ヤリイカ 1匹	再教育学生乗船
11月14日	〃	〃	〃	〃
1980年		〃		
2月 8日	〃	〃	〃	学生乗船なし
2月13日	〃	シェバ沖	〃	学生乗船
2月19日		〃	〃	学生乗船
2月28日		〃	ヤリイカ 30匹	漁業訓練センター学生乗船

曳縄（曳釣）漁業操業実績（訓練船エルメディ号 O・N・Pトロール船による）					
年月日	時間	操業海域	漁獲	水温	記事
1980年 3月19日	0800～1400	マディア沖	ナシ	16.0℃	ELMEHDI号（日本人3名，CFPP10名，カウンターパート1名）
24日	0900～1544	〃	〃	16.0℃	〃 日本人1名，CFPP10名
25日	0815～1640		〃	16.0℃	〃 〃
26日	0825～1640			16.5℃	〃 〃
27日	0830～1520			17.0℃	〃 〃
3日	0600～0930			17.0℃	〃 〃
		上記は曳縄漁法			
1980年 9月 4日～9月 6日	（船名STAMRAD） マディア，シェバ沖		黒鮪 4本（320 Kg）	24 ℃	ON・P船員 12名 日本人 3名
9月 8日～9月10日	（船名RACHID） マディア，シェバ沖		1本（65 Kg）	〃	〃 （12 / 2）
9月11日～9月13日	（船名STAMRAD） マディア，シェバ沖		黒鮪 1本（115 Kg）	〃	（12 / 2）
	上記はトロール船上より曳釣漁法である。				


GULF
OF
HAMMAMET
S
I
A

（日本政府の分担）

	R／Dにおける目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R／Dと現段階での目標及び計画	協定終了時に於ける達成見込	備　考
N）専門家の派遣	R／D 日本国政府は下記の専門家の派遣を自己の負担において実施する。 (1) 首　席　1人 (2) 専門家 トロール漁業　1人 旋網漁業　1人 まぐろ延縄漁業　1人 (3) 業務調整員　1人 尚再教育訓練のために必要に応じ短期専門家を派遣し得る。	R／Dでは総計5名の専門家の枠であるが仏語通訳者を業務調整として追加し現在長期専門家は6名となっている。 又更に2名の協力隊員（漁船機関・漁具漁法）が配置されており，1980年10月に漁機関の協力隊員と入れかわりに漁具漁法の協力隊員が着任する予定となっている。	・本プロジェクトの業務は英語を通じて行う計画であったが英語で用を足せるカウンターパートは1人もおらず止むなくチュニジア側と協議検討の上仏語通訳者1名を業務調整員として追加派遣となった。 ・旋網漁業専門家の派遣計画と実績とのずれは適船の都合がつかなかったことと適任者の選択が遅延したことによる。 ・本プロジェクトに於ては初めから仏語という意志疎通手段の問題があったのであるが，更にはもう一つ業務遂行上専門家補佐役の必要性が痛感されている。たまたま折良く現地駐在員の中から当プロジェクトへの参加希望者があってチュニジア政府及び協力隊駐在員と協議の結果，漁船機関隊員の当プロジェクトへの配転実現。		

	計画		実績	
	M／M	派遣期間	M／M	派遣期間
(1) 首　席		1978. 9.	31	1978.12.18～1981. 6.30
(2) 専門家				
・トロール漁業		1978. 10.	30	1979. 1.15～1981. 6.30
・まぐろ延縄漁業		1978. 10.	31	1978.12.18～1981. 6.30
・旋網漁業		1978. 10.	16	1980. 3.25～1981. 6.30
(3) 業務調整員				
・全　般		1978. 9.	31	1978.12.18～1981. 6.30
・仏　語			18	1979.10. 1～1981. 6.30
(4) 短期専門家				
・旋網漁業			1	1979. 5.22～1979. 6.23
・電子機器			1	1979.10.26～1979.11.26
・まぐろ延縄			6	1980. 6.18～1980.11.15
・旋網漁業			1	1980. 6.18～1980. 7.14
(5) 協力隊員				
・漁船漁法			19	1979. 3. 8～1980.10.17
・漁具漁法			24	1980. 2. 5～1982. 2. 4
・　〃			24	1980.10. 9～1982.10. 8

	R/D における目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R/Dと現段階での目標及び計画	協定終了時に於ける達成見込	備　考
V] 日本人専門家の業務	(A) 首席の任務 日本人の首席は本プロジェクトの運営に関して技術での責任を第一の任務とする。次にプロジェクトに関して所長に対し必要あれば水産局長に対し助言する。 (B) まき網漁業専門家の任務，再教育訓練参加者に対し旋網漁業技術に関する理論と技術を指導する。 (C) トロール漁業専門家の任務 再教育訓練の参加者に対しトロール漁業技術について理論と実技を指導する。 (D) まぐろ延縄漁業専門家の任務 再教育訓練参加者に対しまぐろ延縄漁業技術についてその理論と実技を指導する。 (E) 業務調整員 首席に対して本プロジェクト運営遂行に関して補佐の業務を担当する。	(a) 追加業務調整員の業務 1979年10月1日から新たに追加した業務調整員の業務は次の通りである。 主として再教育訓練座学等における仏語通訳並びに教材翻訳を行う。 (b) 沿岸漁業に対し各専門家は次の業種別課目を担当することとなった。 ①曳網・大目網漁業は延縄漁業専門家が担当する。 ②タコツボ・エビかご・立延縄各漁業は旋網専門家が担当する。 ③刺網漁業専門家が担当する。 ④いか釣漁業は業務調整員が担当する。	沿岸漁業については既述の様に各専門家が関連の分野を分担することでチュニジア側と合意された。	更にその後漁具漁法2名の新任隊員が実現した。	

	R/D における目標及び計画	現段階における目標，計画	協定 R/D と現段階での目標及び計画	協定終了時にかける達成見込	備　考
Ⅵ〕カウンターパート日本研修	(a) 日本国政府は日本国において施行されている法令に基づき自己の負担において本プロジェクトに関係するチュニジア人要員を日本での技術研修のために日本の技術協力計画に基づく手続により国際協力事業団を通じて受入れるための必要な措置をとる。 (b) チュニジア共和国政府は日本国における技術研修により得た知識及び経験がプロジェクト運営のために効果的に使用されることを確保するため必要な措置をとる。	A〕R/D 計画 変更なし B〕研修員受入実績 (a) 行政研修 (b) 技術研修			

(a) 行政研修

年度	人数	研修者	期間	研修時期
1977	3名	水産局(2名) 漁業　(1名)	3週	1977.3
1978	2名	水産局センター所長	3週	1978.7

(b) 技術研修

年度	人数	研修者	期間	研修時期
1978	2名	トロール(1名) 旋　網(1名)	3週	19793.13 ~19794. 5
1979	1名	まぐろ延縄(1名)	1ケ月	1980.2.28 1980.3.25

業種別技術研修計画及び実績

計画			実績				計画変更理由
業種	人数	時期	人数	時期	人数	時期	
トロール漁業	1	1979. 2 ～1979. 3	1	1979. 3 ～1979. 3			計画と実績の差異の中，期間の短縮が見られるのは長期乗船実習がむずかしいことから短期間の見学研修にせざるを得なかった為である。
	1	1980. 7 ～1980. 12			1	1981. 1 ～ 1981. 3	
まき網漁業	1	1979. 2 ～1979. 3	1	1979. 3 ～1979. 3	1	1981. 4 ～ 1981. 6	
	1	1980. 7 ～1980. 12	1	1980. 3 ～1980. 3	1	1981. 1 ～1981. 3	
沿岸漁業	1	1980. 7 ～1980. 12	1	1980. 7 ～1980. 12			尚沿岸漁業予定のカウンターパートは神奈川水産国際研修センターの沿岸漁業コースで研修中
漁業一般	1	1981. 5 ～1981. 6			1	1981. 5 ～1981. 6	
計	8		4		4		

	R／Dにおける目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R／Dと現段階での目標及び計画	協定終了時に於ける達成見込	備　考
Ⅶ〕機材供与	(1) 日本国政府は日本国において施行されている法令に基づき自己の負担において本プロジェクトに必要な資機材を日本の技術協力手続により国際協力事業団を通じて供与するための必要な措置をとるものとする。 (2) 上記の記載の物品はＣＩＦ建てでチュニジア共和国におけるいづれかの空港又は港において関係当局に引き渡された時点でチュニジア国政府の財産となり日本人専門家と協議のうえ，本プロジェクトの実施のためにのみ使用されるものとする。 日本国政府が供与する物品の表 (1) 次の分野に必要な漁網，漁具，漁業機材及び附属機材 (a) トロール漁業 (b) まき網漁業 (c) まぐろ延縄漁業 (d) 沿岸漁業 (2) 視聴覚機材 (3) プロジェクト遂行に必要な車輌，事務機材	A〕実　績 (a)機材供与に係るR／D記載事項は全て遵守されている。 (b)機材到着が遅れている。 (c)機材に引取り，特に空送機材の引取りに時間がかかりすぎる。			

表 11. 供与機材据付使用計画及び実績

到着機種	主用機材名	据付使用計画	実績 チェニス港到着日	実績 センター到着日	実績 据付使用年月日	実績 供与金額（概算千円）	実績 R/D計画達成指数	備考
1 電子機器	ネットレコーダー	1978. 10～12	1979. 2. 6	1979. 2. 28	1979. 11	4,762		昭和53年度分
2 車輌	ランドクルーザー	〃	〃	1979. 6. 5	1979. 6	2,665		〃
3 トロール，ランパラ漁具	6枚網	〃	1979. 3. 4	1979. 3. 23	1979. 4	11,258		〃
	ランパラ網	〃	〃	〃	〃			〃
4 まぐろ延縄漁具	ラインホーラー，漁具	〃	1979. 6. 8	1979. 7. 10	1979. 8～			〃
沿岸漁具	刺網類	〃	〃	〃	1979. 8			〃
計測機器	流速計	〃	〃	〃	〃	13,288	ト100％	〃
視聴覚機器	8 mm/mm 映写機	〃	〃	〃	〃			〃
事務用品	ゼロックス	〃	〃	〃	〃			〃
5 電子機器	魚群探知器	〃	1979. 8. 6	1979. 9. 28	1979. 11	6,591		〃
6 沿岸漁具	いか釣機	〃	1979. 8. 23	1979. 10. 12	1979. 11	848		〃
7 計測機器	水深温度計	〃	1979. 10. 19	1979. 10. 27	1980. 8	582		〃
8 電子機器	アルカリ乾電池	〃	1980. 3. 4	1980. 4. 8	1980. 4			〃
9 視聴覚機器	ビデオカメラ	1979. 10～12	1980. 5. 15	1980. 5. 15	1980. 5			昭和54年度分
沿岸漁具	小型ネットラインホーラー	〃	〃	〃	〃	2,654		〃
事務用品	コピー紙	〃	〃	〃	1980. 4			〃
10 書籍	教科書	〃	1980. 4. 27	1980. 7. 15	1980. 7			〃
11 まぐろ延縄漁具	釣針	〃	〃	〃	〃			〃
12 航海機器	ロケット発光信号	〃	1980. 6. 27	1980. 7. 27	1980. 8		ト110％	〃
13 視聴覚機器	アダプター		1980. 7. 8	1980. 7. 27	〃	76		〃
14 トロール漁具	6枚網		1980. 7. 25	1980. 11. 25	1980. 12	33,252		〃
まぐろ延縄漁具	延縄漁具		1980. 7. 25	1980. 9. 6	1980. 9			〃
15 巻網	600 m 巻網		1980. 7. 23	1980. 11. 25	1980. 12	38,366		〃
							昭和55度分としてソナー等60000千円を供与予定。	

	(plan) Qty	(Received) Qty		
1. Trawl fishing gear and its equipement				
Trawl net completed	1 set	1979.3.4	1979.3.23	S53
Otter boads	1 set	"	"	"
Spare nets and accessaris	for 1 year	"	"	"
Warp	10 coils	"	"	"
Gear making instruments	30 sets	"	"	"
Wirless telephone	1 set	1979.8.6	1979.9.28	"
Radar	1 set	"	"	"
Fish finders	1 set	"	"	"
Direction finder	1 set	"	"	"
Warp angle gauge	2 pieces	1979.6.8	1979.7.10	"
Warp tension meter	1 piece	"	"	"
Net recorder	1 set	1979.2.6	1979.2.28	"
Anemographe, handy type	1 set	1979.8.23	1979.10.12	"
Anemographe for vessel use	1 set	"	"	"
Bathy thermograph	1 set	1979.10.19	1979.10.27	"
Loran	1 set	1979.8.6	1979.9.28	
Station pointer	1 set	1979.6.8	1979.6.8	"
Aqualung	2 sets	1979.6.8	1979.6.8	"
Volt regulator	3 sets	"	"	"
Life jacket	20 sets	"	"	"
Sea working cloth and instruments	20 sets	"	"	"
Chart working instruments	2 sets	"	"	"
Complete four seams trawl net	2 sets	1980.7.25	1980.9.5	S54
Complete two seams trawl net	1 set	"	"	"
Complete shrimp trawl net	1 set	"	"	"
Ottar boards	1 set	/		
Recording type angle gauge	1 set	/		
Spare materials and accessaries	1 set	1980.7.25	1980.9.5	"
Recording net height meter	1 set	"	"	"
Tension meter	1 set	"	"	"
Recording net depth meter	1 set	"	"	"
Net recorder receiver	2 sets	"	"	"
Net recorder sender	2 sets	"	"	"
Gyro compas, small type	1 set	/		S55
Radar, 100 miles	1 set	1980.7.25	1980.9.5	S54
Recording papers of fish finder	200 coils	"	"	"
Fish echo magnifier	1 set	/		S55
Chronometer	1 set	1980.7.25	1980.9.5	S54
Mid water trawl net (Completed, for sardine and horse mackerel fishing with 200 ton and 300 H.P. vessel for above vessel)	1 seam	/		S55
Otter boad	1 set	/		"
Float	100 pis	/		"
Iron balls	40 pis	/		"
Rubber ball	30 pis	/		"
Punched tires	400 pis	/		"
Wooden bobbin	50 pis	/		"
Spare nettings	55 pis	/		"
Twines	30 balls	/		"
Ropes	3 balls	/		"
Sonnar	1 set	/		"
Alkari battery	200 pis	/		"
Recording paper of fish finder on the Salacta	100 pis	/		"
Recording paper of fish finder, handy	100 pis	/		"

	(plan) Q'ty		(Received) Q'ty	
Recording paper of facsimile	50 pis		/	S55
Saterite navigater with recorder	1 set		/	"
Spead meter, handy type	1 set		/	"
2. Lampara fishing gear and its equipment				
Lampara netting materials	1 set	1979.3.4	1979.3.23	S53
Electric thermometer	1 pie	"	"	"
Underwater fish attraction lamp with spare lamps	2 sets	"	"	"
Generator	1 set	"	"	"
V roller	1 set	/		"
Catch hauler	2 sets	/		"
Fish finder with recording paper, portable	2 sets	1979.8.6	1979.9.28	"
Net zonde	1 set	"	"	"
Walkie-talkie	1 set	"	"	"
Ekmann-Melz current meter	2 sets	1979.6.8	1979.7.10	"
Salinity tester	1 set	"	"	"
Underwater illumination tester	1 set	"	"	"
Secchi disk	1 set	"	"	"
Binocomars	5 pis	(-2pis) "	"	"
Stop watch	7 pis	(-3pis) "	"	"
3. Sardine purse seine equipment				S54
Complete sardine purse seine net	1 set	1980.7.23	1980.11.25	
Fish attraction lamps with spares	2 sets	/		"
Generator for fish attraction	2 sets	/		"
Spares and accessories	1 set	1980.7.23	4	
P H meter	1 set	1980.7.25	1980.9.5	"
D O meter	1 set	"	"	"
Turbid meter	1 set	"	"	"
Small V. roller with drive	1 set	/		S55
Binocular 8 times	5 sets	/		"
Twines 210 D	21 kg	/		"
" 20 S	20 pis	/		"
Float		/		"
Electric lamp case	10 pis	/		"
Batteries for the abive use	100 pis	/		"
Portable fish finder with recording paper	1 set	/		"
4. Tuna long line fishing equipment				
Line hauler	1 set	1979.6.8	1979.7.10	S53
Long line	50 baskets	"	"	"
Complete tuna long line	150 "	(-50bas) 1980.7.25	1980.9.5	S54
Radio buoy	2 sets	(+1set) "	"	"
Light buoy	10 sets	(-8 ") "	"	"
Spares and accessories	1 set	"	"	"
Hand presser	1 pie	(-1pie) "	"	"
Hatteriels of tuna long line	50 basck	(-50)		S55
Hooks	2500 pis	/		"
Sekiyama	5 balls	/		"
Wire leader	10 balls	/		"
Float	200 pis	/		"
Springs	4000 pis	/		"
Toyo locks	5500 pis	/		"
Swivel	200 pis	/		"
Bamboo	100 pis	/		"
Batteries for light buoy	20 pis	/		"

	(Plan) Q'ty	(Recieved) Q'ty		
5. Coastal fishing gear and its accessories				
Squid fishing machine	5 sets	1979.8.23	1979.10.12	S53
Trammel net completed	20 pis (-10)	1979.6.8	1979.7.10	"
Bottom gill nets completed	30 pis (-10)	"	"	"
Compete bottom gill net	50 pis	1980.7.25	1980.9.5	S54
Complete big mesh drift net	50 pis (-50)	1980.7.23	1980.11.21	
Complete bottom long line	50 baskets	1980.7.25	1980.9.3	"
Complete vertical long line	50 baskets	"	"	"
Complete aquid line	25 sets	"	"	"
Complete shrimp basket	50 "	"	"	"
Complete octipus pot	200 pis	"	"	"
Complete trolling line	110 sets	"	"	"
Light buoy for coastal fishing	20 pis	"	"	"
Net/Line hauler	2 sets (-1)	1980.4.15	1980.5.15	"
Sguide machine, electorical	2 sets	1980.7.25	1980.9.5	"
Spares	1 set	"	"	"
Trammel net transparent, complete	50 seams			S55
Shrimp gill net completed	50 seams			"
Hocks for trolling	400 pis			"
Artificial baits for trolling	100 pis			"
Working gloves	50 dosens			
6. Lif saving equipment				
Life jacket	30 pis	1980.7.25	1980.9.5	S54
Sea working clothes	30 pis	"	"	"
Automatic expansion rift	1 set	"	"	"
Ignition signal	50 pis (-50)	"	"	"
Signal boll	1 pie	"	"	"
7. Audio visual aids				
Television	1 set	1979.3.4	1979.3.23	S53
Movie camera 8m/m	1 set	1979.6.8	1979.7.10	"
Movie projector 8m/m	1 set	"	"	"
Movie projectot 16m/m with screen	1 set	"	"	"
Slide projector	1 set	"	"	"
Epidiascope	1 set	1980.4.15	1980.5.15	S54
Tape recorder	1 set (-1)			"
Slide film	1 set	1980.4.15	1980.5.15	"
Video camera	1 set	"	"	"
Playback machine equipment other accessories	1 set	"	"	"
8 m/m movie film	10 pis	"	"	"
Camera	1 pie	"	"	"
Models	1 set	"	"	"
Video tpe	5 pis	"	"	"
8. Vihicle				
Station wagon	1 car	1979.2.6	1979.6.4	S53
Micro bus	1 car (-1car)			S54-S55
9. Office equipment				
Office supplies	1 set	1979.6.8	1979.7.10	S53
Type writer	2 sets (-2sets)			"
Calculating machine	2 sets	1979.6.8	1979.7.10	"
Recopy machine	1 set (-1set)			"
Zelox machine	1 set	1979.6.8	1979.7.10	"
Books		"	"	"
Models		"	"	"
Mimeograph	1 set	1980.4.15	1980.5.15	S54
Office supplies	1 set	"	"	"
	" (-1set)			S55

（チュニジア政府の分担）

	R/Dにおける目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R/Dと現段階での目標及び計画		備考
Ⅷ〕チュニジア側スタッフの配員	チュニジア共和国政府はチュニジア国において施行されている法令に基づきチュニジア職員の役務を提供する（R/D 5条1の(1)） A. チュニジア側スタッフ計画定員及び実績 ｜計画定員｜ 実績 ｜定員 (1)所　長　1 (名)　1 (名)　0 (名) (2)副所長　1　0　1 (3)カウンターパート　5以上　6 ・漁業一般　1以上　0　1 旋網漁業　1以上　1　0 トロール漁業　1以上　2　0 まぐろ延縄漁業　1以上　2　0 ・沿岸漁業　1以上　0　1 (4)事務職員　必要数 29　29　0 (5)訓練乗組員　12　10　0 船　長　1　1　0 甲板長　1　1　0 船長見習　2　2　0 機関長　1　1　0 甲板員　5　3　0 機関員　1　1　0 賄　員　1　1　0	・所長は旋網カウンターパートAli Karkerの転出（1980. 9. 20）以降副所長及び漁業訓練センター（C.F.P.P）の所長を兼いる。 ・専任のカウンターパートについては漁業一般と沿岸漁業の両カウンターパートが欠員しているとともに次のとおり他の業務を兼ねている。 ・2名の旋網カウンターパートのうち1名は漁業訓練センター副所長であって漁業一般のカウンターパートも兼ねていた。 （1980. 9. 20まで） ・2名のトロール漁業カウンターパートのうち1名はサラクタ号の副船長兼任。 ・2名のまぐろ延縄カウンターパートのうち1名はサラクタ号副船長兼任他の1名は旋網漁業カウンターパート兼任。 ・沿岸漁業カウンターパートは1980年12月下旬任命の予定のためそれまで各カウンターパートが兼任する。 (d)甲板員2名の欠員。	(a)所長の兼任の理由の一つとしてチュニジア側の人材不足がある。 (b)副所長欠員の理由は人材不足の為任命雇用が制限を受けてことがある。 （前副所長は日本専門家の到着の前にSFAX副所長に転出した。） (c)カウンターパート不足の理由も同上である。 (d)漁期によって民間船の方に転業するので欠員になり易い（幹部は定着）		(c)カウンターパートの欠員と兼任の状態によりカウンターパート養成の速度が遅く又再教育訓練に大きく支障を来して居り旋網漁業カウンターパートAli氏の転勤，沿岸漁具の到着などから事態はさし迫っているので早急な欠員の補充が望まれる。尚旋網漁業カウンターパートAli Karker氏は1980年9月20日よりモナスティール漁業訓練センター所長へ転勤した。

B　チュニジア側スタッフ配置計画

	計　画	実　績	備　考
(1)所　長	1978－ 7	1978－ 7	専門家の現地到着
(2)事務職員	1978－ 7	1978－ 7	－1978－12－
(3)カウンターパート			
・トロール漁業担当(1)	1978－ 7	1978－ 7	カウンターパート教育開始
〃　(2)	1978－ 7	1979－ 7	1979－2
・まき網漁業担当	1978－ 7	1978－ 7	再教育訓練開始
・まぐろ延縄漁業担当(1)	1978－ 7	1978－ 7	1979－7
〃　(2)	1979－10	1979－10	
(4)訓練船乗組員	1979－ 7	1978－ 7	

C. 学歴別カウンターパート数

	計　画	実　績	
大学卒業者		2	
水産高校卒業者		3	

D. 水産局長及びセンター所長の責任

(a) 水産局長及び本プロジェクトの実施について全般的な責任を負う。

(b) 所長はプロジェクトの運営について責任を負う。

(c) 所長はプロジェクトの実施について日本人側と緊密な協議の下に行う。

	R/Dにおける目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R/Dと現段階での目標及び計画		備　　考
Ⅹ〕訓練船の種類と使用状況 1）サラクタ（SALACTA）号	本船は国立漁業センタープロジェクトに所属する唯一の訓練船であって200トンのトロール施網両漁業用として建造された鋼鉄船であるが，更に可能であればラインホーラーも据付けて三種類の漁業について再教育訓練に役立たせることを目論んだ。	トロール装備についてはウインチ性能が悪い為日本から搬入した縦型オッターボードの使用が出来ずやむなく現装備で操業を行って居り旋網とまぐろ延縄装備は不完全で大改造を必要とする為此の二つの漁業に対しては他に巡船を求めている状況である。	巻網及まぐろ延縄を行う為の改造工事は多くの日数と経費がかかりしかも改造しても満足すべき操業は困難との判断から一応見送っている。		旋網漁船については O.N.P 若しくは民間企業の専門所属船を充当すべく努力しているがまだ該当船が見当らず，まぐろ延縄については船首部にラインホーラー据付にて解決することも検討中である。
2）エルメディ（ELMEHDI）号	本船は隣接する漁業訓練センター（C.F.P.P）に所属する8トンの沿岸多目的漁業訓練のための船である。これは同センターの協力によりいか釣，曳縄，たこつぼ等を含む沿岸漁業について再教育訓練用に使用する。	左に同じ			
3）イブンメイムン（IBN ME IMOUN）号	O.N.P 所属の60トン木造トロール船を同社の協力により再教育実習用として間に合わせの小改造をなしトロールウインチを使用して（1980年5月～8月）小規模のまぐろ延縄操業を実施した。	左に同じ			操業の結果は既述の通り主機軸に欠陥があって満足すべきものはなかったが若干の漁獲もあって再教育の目的は或程度達したと云える。

	R／D における目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R／D と現段階での目標及び計画	協定終了時に於ける達成見込	備　　考
X〕施設設備	下記に掲げる土地，建物，及び施設を提供する。 (a) 首席の部屋 (b) 専門家の部屋 (c) 教　室（複数） (d) 漁具実習室 (e) 漁具実験室 (f) 漁具倉庫 （R／D 5条1の(3)）	(a) 敷　地　6,347 m² (b) 建物面積　2,200 m² (c) 首席室兼専門家室　367 m × 2.90 m (d) 専門家室　6.50 m × 3.80 m (e) 教室兼会議室　6.62 m × 9.10 m (f) 漁具実習室（漁具実験展示室を兼ねる）　18.00 m × 6.72 m (g) 漁具倉庫　6.72 m × 5.00 m	問題点 1）日本人専門家の増員，協力隊員の参加により専門家の執務室が狭い。チームリーダー室（電話付）小会議室が必要である。 2）事前，実施調査時と異なり協力期間に入ってからマティア漁業訓練センター（C.F.P.P が併置された。その結果教室専門家室がせまくなり業務の実施に不便を感じることがしばしばあった。		
XI〕教　材　等	R／D 3条により国際協力事業団を通じて供与される以外にプロジェクトの実施に必要な機械機器，工具，車輌部分品及その他の資材の調達をする。（R／D 5条1の(3)）	A〕計画変更なし B〕実　績 (a) 本項目自体に関する予算は非常に少ないので充分に物を補足することは困難である。			
XII〕運営費等	チュニジア政府はチュニジア国の法令に基づき次のものを負担する為必要な措置をとる。 (a) 日本政府から供与される物品のチュニジア国内における輸送並びにこれらの物品の据付け，操作及び維持に必要な経費 (b) 上記の物品についてチュニジア国内において課せられることがある関税，内国税及びその課徴金 (c) 本プロジェクト実施に必要な全ての運営費　R／D 5条1の(6)	A〕計画に変更なし B〕実　績 (a) 左記(a)(b)は遵守されている。 (b) 左記(c)に関しては開発業務費が増加しているが必要な船のチャーターが行われていないことから充分な額とは云えない。 (c) 左記(d)に関しては ・まぐろ延縄漁業のための船が1980年春まで見つからず（C.N.P トロール船			

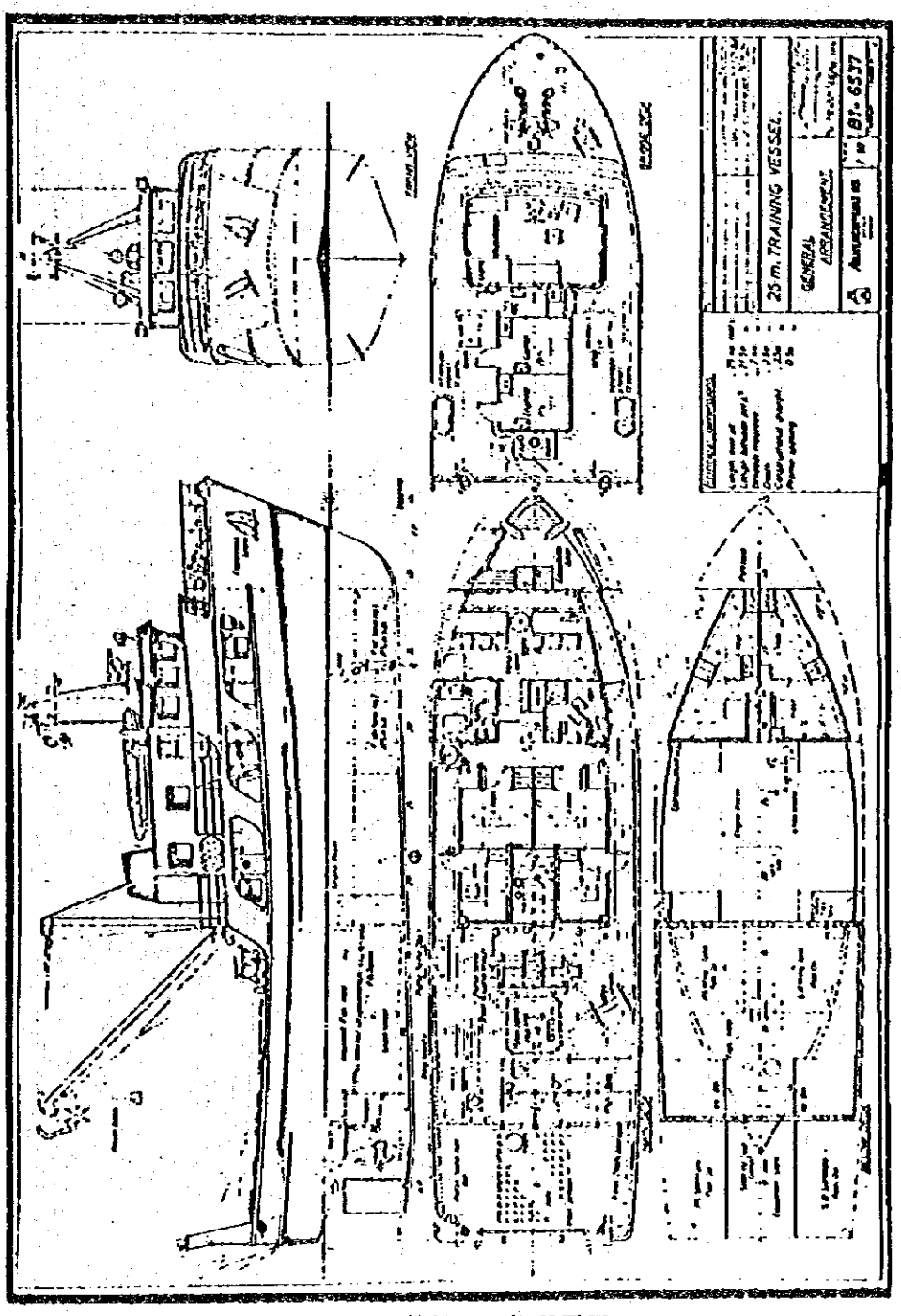


図２　訓練船の一般配置図

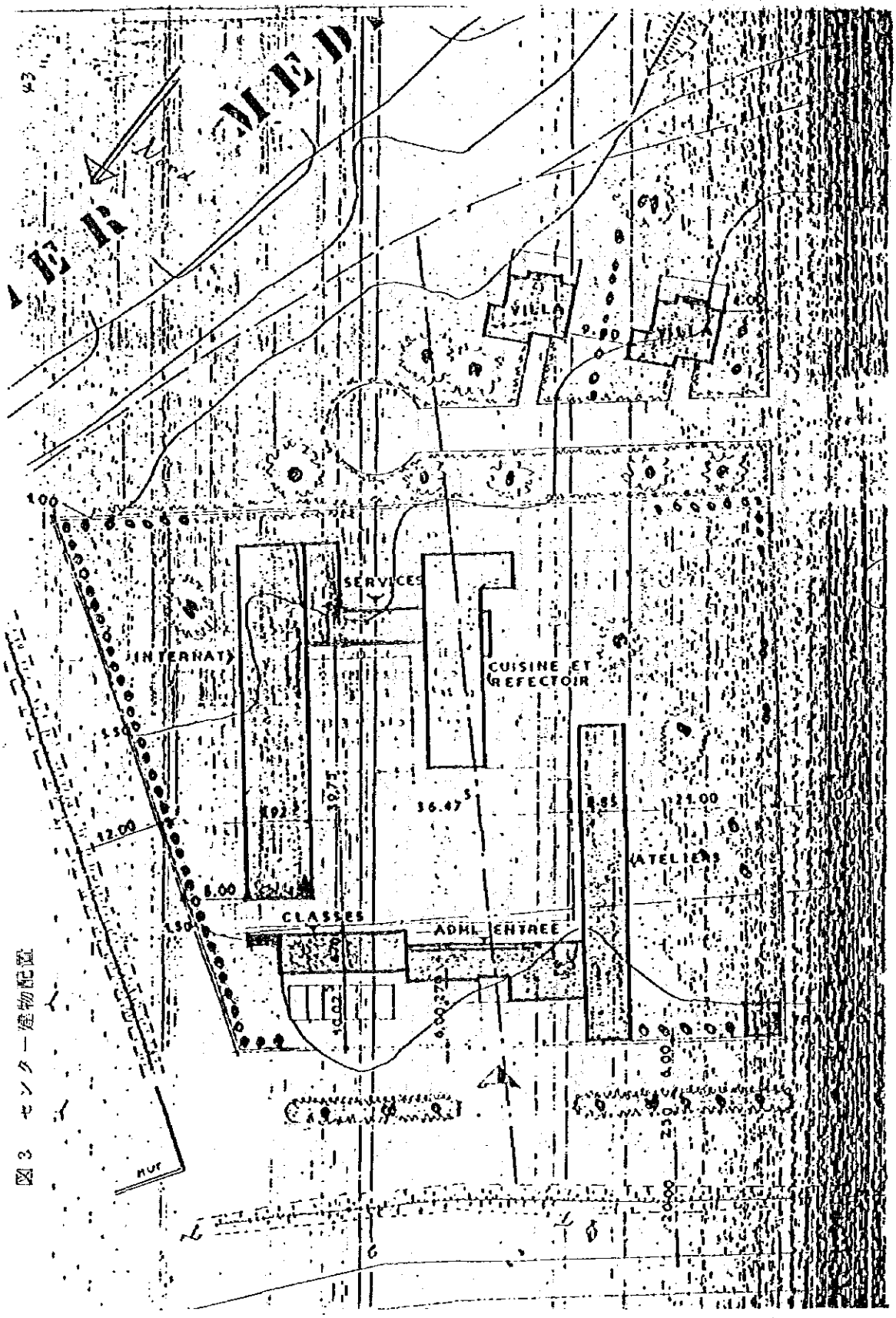

VILLA
VILLA
SERVICES
INTERNAT
CUISINE ET REFECTOIR
ATELIERS
CLASSES
ADMI ENTREE
36.47
21.00
12.00
8.00
1.00
5.50
1.50

図3 センター建物配置

表12　チュニジヤ側負担予算状況

	題目	1979	1980
1	職員人件費	14,000	14,000
2	用務員	6,600	6,600
3	事務職員	21,800	21,800
4	契約人材	5,300	5,000
5	宿舎，税金，保険	5,000	
6	諸雑費及び暖房器	600	600
7	建物，資材メンテナンス	600	600
8	水道代	800	1,050
9	光熱費	1,600	3,500
10	動産	1,500	1,500
11	電話料	1,000	1,000
12	印刷文房具	900	900
13	車修理	500	600
14	ガソリン燃料	600	900
15	衣服	500	500
16	給食費	4,000	4,000
17	一般器材	1,000	200
18	開発事務費	9,300	15,130
19	交通費	500	250
20	運送代	100	—
21	出張費	300	300
22	公務出張	400	200
	賞状遠足	400	200
	計	77,300	79,130

単位ディナールは約600円である。

	R／Dにおける目標及び計画	現段階における目標，計画	協定R／Dと現段階での目標及び計画	協定終了時に於ける達成見込	備　考
	(d) 各種漁業開発に必要な漁船 R／D 5条1の(6)	の応急改造の船も能，主機の故障頻発にて使用に耐えず） ・巻網漁業の方は操業船の中に適船はあるが民間及O・N P.の協力が得られない。 以上により2科目の事業は大巾に遅れた。			
XIII 日本人専門家に対する便宜供与等	(a) 日本人専門家及びその家族はチュニジア国内において特権免除及び便宜を与えられ且つチュニジア国内において同様の任務を遂行している第3国又は国際機関の専門家に与えられるものと同等とする。 ①海外から送金される生活手当に関してはそれに関連して課せられる所得税及びその他の課徴金の免除。 ②海外からチュニジア国内に持ち込まれることのある身廻品及び家財に関して課せられる輸入税，輸出税及びその他の課徴金の免除。 ③日本人専門家及びその家族に対する無料の現地医療，役務及び便宜。 (b) チュニジア国政府はチュニジア国において施行されている法令に基づき次のものを負担するために必要な措置をとる。 ①日本人専門家の公務の国内出張のための旅費。②日本人専門家及び家族のための適当な住宅施設設備（R／D 5条1の(4)(5)	(a) ①，②は遵守されている。 ③にかかる医療費に関しては入院等を要する病気以外については日本側からの給付を実施してもらっている。 (b) ①にかかる国内旅費（公務出張）についてはチュニジア側が月額80ディナール負担することになっている。 ②にかかる専門家用の住居についてはチュニジア政府より月額80D負担となっているがこの額では家具等を含めるとこの額では全く不足なので専門家全部が日本側負担によりマティヤ市内に住宅を借り上げた。			

表13　再教育訓練実績表　（1978. 12. 1～1980. 11. 30）

12/53　1/54　2　3　4　5　6　7　8　9　10　11　12　1/55　2　3　4　5　6　7　8　9　10　11　12

20全般準備　20再教育準備　16第1回サイクル　30 8　第2回サイクル　14　第3回サイクル　12月下旬まで

再教育訓練

- 機材・船の点検等
- カウンターパート教育教科書の修正
- 訓練用適船の調査、住居の設営
- 本プロジェクト関係機関挨拶打合わせ
- オリエンテーション　漁業全般　16　24
- まぐろ延縄　17　29　3　19
- オリエンテーション　漁業全般　7　14
- トロール　3　14　13　30
- オリエンテーション　漁業全般　14　20
- トロール　3　12月下旬まで
- トロール　24　18　3　22　17
- 旋網　19　28
- 旋網　14　8　3
- まぐろ延縄　5　29　21　26
- まぐろ延縄　21　4　15　13
- 旋網　16　31
- 講義　夏期休暇
- 海上実習
- 講義陸上実習
- 秋期休暇
- 講義陸上実習
- 講義陸上実習（三日間の延縄イカ釣実習を含む）
- 講義陸上実習（二日間の受給見学を含む）
- 講義陸上実習
- 陸上実習（イカ釣実習を含む）
- 講義陸上実習
- 講義陸上実習
- 海上実習
- 春期休暇
- 講義陸上実習
- 講義陸上実習（曳縄定置網の講義を含む）
- 海上実習
- 漁業全般旋網講義
- 海上実習
- 講義陸上実習
- 海上実習
- 夏期休暇
- 海上実習
- 講義陸上実習
- 講義陸上実習
- 講義陸上実習
- 海上実習

訓練船運航

- サクラタ号：トロールランバラ　1　25；トロールランバラ　10　30；トロール　2　12；トロール　23　21；トロール　21　35；トロール　17　18
- イブンメイムン号：まぐろ延縄　5　23
- エルメデイ号：イカ釣　13　13　28；曳縄　14　3

表14　再教育訓練計画（昭和55年4月～昭和56年6月）

		4/55	5	6	7	8	9	10	11	12	1/56	2	3	4	5	6
再教育訓練		第二次サイクル →				第三次サイクル ↔						第四次サイクル ↔				
		春期休暇	トロール海上実習	まぐろ延縄 座学・陸上実習	まぐろ延縄 海上実習	オリエンテーション 漁業全般	陸上実習 トロール座学	夏季休暇	トロール座学・陸上実習	トロール海上実習	まぐろ延縄 海上実習 陸上実習	秋期休暇	巻網座学	陸上実習	巻網海上実習	オリエンテーション 漁業全般 巻網座学・陸上実習
訓練船の運航	サクラタ号	トロール					トロール					トロール				
	O.N.P水産局又は民間船	巻網						巻網		巻網			巻網		巻網	
		まぐろ延縄					まぐろ延縄							まぐろ延縄		
	エルメディ号	かつお曳縄・大目流し					まぐろ曳縄大目流し いか釣			たこつぼ，いか釣，立縄，底延縄					かつお曳縄 大目流し	

表15　技術協力実績

	7/53 8 9 10 11 12 1/54 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1/55 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
協力期間 チームの派遣	5/7 ―― 30/6/1981 7/4 ―― 29/4 巡回指導
専門家派遣 （6名）	江又貞次（首席） 18/12 ―― 30/6/1981 大塚富士男（巻網・まぐろ延縄漁業） 18/12 ―― 30/6/1981 武田勇（巻網漁業） ―― 30/6/1981 高杉重光（業務調整全般） 18/12 ―― 30/6/1981 鈴木直道（トロール漁業） 15/1 ―― 30/6/1981 橋本幸雄（業務調整・仏語） 1/10 ―― 30/6/1981
短期専門家の派遣（4名）	薬袋親正（巻網漁業） 22/5～23/6 26/10―26/11 池田正孝（電子機　） 森敬四郎（巻網漁業） 18/6～14/7 今井卯一郎（まぐろ延縄漁業） 18/6 ―― 15/11
協力隊員の派遣 （3名）	8/3 ―― 18/10 5/2 ―― 4/2/1982
機材の到着	21/2 ランドクルーザー部品 28/2 ネットレコーダー等計器 23/3 ランバラ漁具類 トロール漁具 4/6 ランドクルーザー 10/7 延縄漁具 ラインホーラー 沿岸漁具等 28/9 魚群探知器等 12/10 いか釣機等 27/10 水深温度計等 8/4 水中灯等 15/5 ビデオカメラ等 視聴覚機具 小型揚網機 15/7 教科書釣針等 6/9 トロール漁具 まぐろ延縄漁具 21/11 600m巻網具
機材供与額	
研修員受入 （カウンターパート3名） 高級準高級 2名	Mr. Larbi Grouze Djerbi（本庁水産局教育課長） 13/3 ―― 5/4 Mr. KarKer Ali（巻網漁業） 28/2 ―― 25/3 Mr. Ben Farhat Ayoub（まぐろ延縄漁業） Mr. Monwf Ben Kbudija（本センター所長） 13/3 ―― 5/4 Mr. Gueblaoui Abdelaziz（トロール漁業）

表16　55年度技術協力計画

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1/56	2	3	
調査チーム派遣（3チーム）	巡回指導						機材修理		エバリュエーション				
専門家派遣（6名）	首席												
	巻網・まぐろ延縄漁業												
	巻網漁業												
	業務調整（全般）												
	トロール漁業												
	業務調整（仏語）												
短期専門家派遣（3名）			巻網漁業1ケ月										
			まぐろ延縄漁業5ケ月										
											電子機器 1ケ月		
協力隊員派遣（3名）	漁船機関												
	漁具漁法												
							漁具漁法						
機材供与 54年度分	横浜港船積				テュニス港到着	本センター到着							55年度分　内容はスキャニングソナー，ジャイロコンパス，トロール，まぐろ延縄及び沿岸漁具予備品，航海及び漁労機械である。
機材供与 60,000千円 55年度分		購入手続			横浜港船積		テュニス港到着	本センター到着					
研修員受入（カウンターパート2名）高級1名							トロールカウンターパート（2ケ月）						
								巻網カウンターパート（2ケ月）					
							水産局長（2週間）						

プロジェクト進捗状況総合評価表

	トロール	まぐろ延縄	旋網	沿岸漁業	漁業一般	備考
Ⅰ カウンターパート						
(a) 配置状況	b	a	c			
(b) 日況	b	b	b			a，A：ほぼ満足の状態である。
(c) 再教育訓練担当状況	b	b	c			
(d) 同上習熟度	b	a	b			
(e) 同上指導能力	b	b	c			b，B：いますこしの努力が必要である。
(f) カリキュラム／シラバス作成経験	a	a	b			
(g) テキスト作成経験	a	a	b			
(h) 機材操作保守点検能力	b	b	c			c，C：一層の努力が必要である。
Ⅱ 施設建設状況						
Ⅲ 機材						
(a) 供与状況	a	a	b	c		
(b) 据付状況	a	c	—	b		
Ⅳ 再教育実施状況	a	b	c	b	b	
Ⅴ 再教育訓練計画	a	a	a	b		
Ⅵ カリキュラム作成状況	a		b	b		
Ⅶ 教科書作成状況	a	a	a	—	a	
Ⅷ チュ側スタッフ配員状況	b	c	c	c		
Ⅸ チュ側予算	a	c	c	b		
総合評価	A	B	C	B	B	